

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

1:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうちであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。

1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。

1:23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

1:24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、

1:25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

はじめに

先週は、旧約聖書からクリスマスに関する預言について学びました。

そして、イエスがお生まれになる 1,600 年も前に、ユダヤ人の救い主が来られるまではユダ族から統治者が出るとヤコブが預言していたことがわかりました。

創世記 49 : 10

49:10 王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う。

この預言は、歴史上のちょうどよい時に実現したこともわかりました。

また、ベツレヘムがユダヤ人の救い主イエスの降誕地になることもわかりました。

ミカ書 5 : 2

5:2 ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。

さらに預言は、救い主のご降誕にはある奇跡が関わっていると教えてくれました。

イザヤ書 7 : 14

7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

それは、処女受胎です。神は 100% 聖なるお方ですから、神の目的を果たすためには、イエスは男性の種をとおしてではなく、奇跡をとおしてこの世に来る必要があったのです。

そして最後に、イエスは不思議な助言者、平和の君となられるお方だとわかりました。

イザヤ書 9 : 6-7

9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の【主】の熱心がこれを成し遂げる。

今日は、クリスマスの目的について学びます。
そのために、今日はマタイ 1 章 21 節に注目しましょう。

マタイ 1: 21

1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

私たちは、多文化社会に生きています。昨年一年だけで、世界中から 1,000 万人の人々が日本を訪れました。その数は年々増加し、東京オリンピックのある 2020 年には、1,500 万人の外国人が来日するかもしれません。

また、多くの人々が母国でない外国で暮らしています。

英国人が日本に住んで働き、日本人が英国に住んで働いたりします。

私の息子は、スイスにあるアメリカンスクールに努めています。そこの生徒たちは、世界中から集まっています。

しかし、文化や宗教が違って、ほとんどの国でクリスマスが祝われています。

世界中で、イルミネーションやプレゼント、お料理などに力を入れます。

なぜクリスマスを祝うか知らずに祝っている人もいます。

しかし、イエスの降誕を祝うというクリスマスの本当の理由を知っているにもかかわらず、イエスの最初の来臨に隠された目的をちゃんと祝っていない人もたくさんいます。

そういう人たちは、ツリー飾りやプレゼント、ごちそう、といった伝統を守っているのです。

きれいなイルミネーションを見て、プレゼントをもらって、ごちそうを食べられるなら、それだけで楽しいので、クリスマスをやめたいとは思いません。

クリスマスを祝う本当の目的を知るまでは、クリスマスの本当の意味をちゃんと祝うことはできません。

けれども、大切なのは目的を知ることだけではありません。その目的を心から喜んで受け入れることです。

クリスマスの目的を心に受け入れると、今年のクリスマス、そして永遠までも、私たちの人生が違ってきます。

では、神のみことばである聖書の中から、マタイの書いた個所を読んで、クリスマスの目的について学んでいきましょう。

1. 神は、奇跡の誕生をとおして、赤ちゃんになられた。(マタイ 1: 18-20)

初めにここで理解しておかなければならないのは、マタイがユダヤ人の著者で、ユダヤ人に向けた福音書を記していることです。

彼らはユダヤ人の文化や伝統、そして旧約聖書をよく知っていました。

18 節で、イエスの人間の母親であるマリヤは、婚約中に妊娠したとあります。私たちは、この意味を理解する必要があります。

ユダヤ人の結婚には、5 段階あります。(創世記 24 章)

1. **Shiddukhin** = 結婚の第 1 段階です。花婿の父親が花嫁を選びます。これは、未来の花嫁がまだ子どもの時に早々になされることもありました。
2. **Ketubah** = これはヘブル語で「書面」という意味です。これは、結婚の契約です。この契約では、同意事項が 3 つありました。
 - 花婿が妻を養うと約束すること。
 - 花嫁が自身の経済状況を明かすこと。(持参金)
 - 花嫁が結婚に同意すること。

3. **Mohar** = 結納金。これは、花婿から花嫁の家族に贈られます。これによって、花嫁は自身の家族に対する責任から解放されます。（創世記 24 : 53）
4. **The Eyrusin** = 婚約式。これは、現代の婚約よりも大きな意味がありました。まず儀式があり、ふたりは高価な品を交換します。指輪や銀製品の場合もあります。婚約期間は一年間で、この間、ふたりは性的関係を持たず、たいていは別々に暮らしました。婚約期間も、夫、妻、と呼ばれました。ですから、マリヤとヨセフの関係について聖書の訳によって違いが出てくるのはこういうわけです。この期間、夫は家を建てたり、実家を増築して二世帯住宅にしたりしました。一年間の婚約期間中、花嫁は花嫁衣裳や将来の衣服を作りました。この時代、結婚の契約は、妻から破棄することはできませんでした。一方、もし妻が性行為を持ったことが発覚すれば、夫は妻を離縁することができました。婚約中の女性は夫とまだ性的関係を持っていなくても既婚者とみなされるので、この場合、離婚が成立します。
5. **婚礼式** - これは、婚約期間の一年が明けたときに行われます。ふたりは一緒に住むようになり、性的関係を持ち、願わくばその後子どもを持つようになります。

では、18 節に戻りましょう。

ヨセフは、婚約中の妻マリヤが妊娠したことを知ったとあります。

これは、先ほど説明した一年間の婚約期間中に起こった出来事です。

ヨセフは当然、マリヤが他の男と性的関係を持ったと思いました。

これが本当なら、ヨセフは自動的にマリヤとの同意を破棄してマリヤと離婚します。この結婚の契約は無効となります。

この状況をどうしようかとヨセフが考えていると、主の使いが夢の中で現れました。

そして、マリヤは不貞を犯したのではないと語りました。

マリヤは誰とも性的関係を持っていませんでした。

マリヤは聖霊の奇跡によって妊娠したと、天の使いはヨセフに言いました。

言い換えると、マリヤはまだ処女のままだったのです。神は、驚くべき奇跡を起こされました。

その奇跡とは、人間の子どもの誕生ではありません。

聖書の神が、イエス・キリストという姿で人間になられたことが奇跡なのです。

これを受肉と言います。それは、霊なる神が人間になれることを意味します。

神は赤ちゃんになって、貧しいユダヤ人家庭で普通に育ちました。

ですから、当時の人がすることをすべて経験しました。

唯一の例外は、このお方は 100% 聖なるお方なので罪を犯されなかったという点です。

イエスは、私たちのすべての状況に働くことがおできになります。それは、私たちが人生で経験することの大半をイエスも経験なさったからです。

私たちが苦勞しているときに一番助けとなる人は、同じような経験をして乗り越えた人たちです。ですから、イエスは聖霊をとおして、人生のどんなことでも、私たちに助けることがおできになります。

クリスマスについて理解すべきひとつの事柄は、クリスマスが祝う内容です。それは、聖書の神がマリヤという処女の胎内から奇跡の生誕を経て人間になられたことです。

これは、クリスマスが一番の目的です。神が人間になられたのです。

全世界とそこにあるすべてをお造りになった創造主が人間になられました。

その理由はひとつです。その理由を探りましょう。

2. 神は、罪から救う救い主になるために、この世に来られた。(21 節)

神が奇跡によって人となられたことを理解するのはよいことですが、それだけでなく、なぜ神がこの世に来られたのかも知る必要があります。

イエスという名がその答えを知るカギになります。

イエスという名は、ヘブル語の「イエシュア」を日本語にしたものです。

「イエシュア」は救い出すという意味です。
ですから、イエスは救出の任務で来られたのです。
イエスが来られた唯一の目的は、罪の罰から人類を救うことでした。
人間による救出活動も世界中で日常的に行われています。
世界中がテレビで注目した最近の救出劇と言え、タイの洞くつから救出されたサッカーチームの少年 12 人とコーチでしょうか。
全員無事に救出されましたが、救出作業にあっていたダイバーが一人死亡しました。
救出作業は困難で、世界中のクリスチャンは彼らのために祈っていました。少年のうちひとりにはクリスチャンでした。
また、数週間前には、本州の約 320 キロメートル沖合で米軍の戦闘機と給油機が空中給油中に墜落しました。
日本の自衛隊も即、捜索と救助に向かいました。また、米国の第 7 艦隊や米軍機も出動しました。
生存の確率は絶望視されましたが、少なくともひとりには救出されました。
タイの少年たちも米軍兵士も、死の危険を認識し、救いだされることを望みました。
一方、イエスの使命には、救いだされることを望む人々のための「永遠のいのち」がかかっています。
聖書は、神がこの世界とそこに生きる動物や自然を造られたと教えます。
そして、ご自身と直接かかわる関係を築くために男を造られました。その後、男の助け手として女を造られました。
しかし残念ながら、彼らは神の言いつけに逆らい、人類は呪われ、神から引き離されてしまいました。
この呪いには、死が含まれました。
永遠の死が、不従順の罰だったのです。

ローマ 5 : 12

5:12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

しかし、神はご自身がお造りになった人を深く愛しておられたので、永遠の死という罪の罰から人間を救い出すために、誰かを遣わすことになさいました。
その使命を負って救出に向かうのが、イエス・キリストだったのです。

ヨハネ 3 : 16

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

この個所には、イエスの救出の使命は、罪からの救出だったと語ります。
罪とは、神の律法に逆らう私たちの考えと言動のすべてです。
聖書は、私たち人間は全員いつかの時点で神の律法を破ったことがあると語ります。

ローマ 3 : 23

3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

詩篇 14 : 1

14:1 愚か者は心の中で、「神はいない」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行っている。善を行う者はいない。

私たちが神の目に間違ったことをしてしまうのは、罪の性質を生まれ持っているからです。
過ちを犯すのは、私たちの罪の性質の一部です。

私たち夫婦には子どもが4人います。子どもたちが小さかった頃、悪いことをしなさいと教えなくても、勝手に悪いことをしました。

まだ小さいのに、どこでそんな悪いことをするのをならったのでしょうか。

私たちが教えたわけではありません。子どもたちの罪の性質がそうさせたのです。

私たちは親として正しいことだけを教えてきました。

私たち人間には、神の目に正しいことと間違っていることとを教えてくれるセンサーがあります。

これを良心と呼びます。良心は、道徳的に正しいことと間違っていることを教えてくれます。

人は良心に耳を貸さないこともあります。それがあつてはわかっています。

聖書は、終わりの時代には多くの人々が道徳的指針である良心に耳を傾けなくなると教えます。これはまさに、現在起こっていることです。

イエスは、天から下ってこられました。それは、神を拒む人々に神が下される永遠の死と罰から私たちを救い出すためです。

神は宇宙船に乗ってやってきて、天国に一緒に行こうと誘ったりはなさいませんでした。それでは問題が解決しないからです。

神の方法はよりよい方法でした。神は御子イエス・キリストを遣わされ、私たちの罪の罰を負わされました。神の義が満たされるためです。

神はご自身のきよさを決して妥協なさいません。罪は必ず罰せられなくてはなりません。私たちの罪も、罰せられなくてはならないのです。

ですから、私たちには選択肢が与えられています。イエスが私たちを救うためにこの世に来てくださったと信じ、神の赦しの賜物を受け入れ、永遠のいのちという約束をいただくことができます。

一方で、神の愛と神が遣わされた救出者イエス・キリストを拒むこともできます。

イエスを拒めば、いつの日か死んでこのお方の前に出ることになります。そのとき、神は私たちを拒まれます。その後、生前の罪にふさわしい罰を受けることになります。

私が今日、皆さんにお渡しできる最高のクリスマスプレゼントは、罪の赦しと天国での永遠のいのちと、永遠の罰から救いだししてくれる救い主です。

今日、あなたはどちらかを選ばなければなりません。イエスとその愛を拒否するか、受け取るかのどちらかです。

こんなお話があります。地獄にふたりの悪魔がいました。ふたりは、人間がイエスを信じて天国に行くのを阻止する方法を考えていました。

ひとりの悪魔が言いました。「地獄なんかいいと言おう。」

もうひとりの悪魔が言いました。「それはうまくいかない。世の中にも悪い人間がたくさんいるから。」

そして言いました。「天国なんかいいと言おう。」

するとひとりめが言いました。「それはうまくいかない。死んだら今よりよい場所に行きたいとみんな思っているから、天国がないと思込ませるのは無理だろう。」

すると3人目の悪魔がそこにやってきて言いました。「話を聞いていたが、うまい方法がある。死後の永遠のことを考えるのは今でなくてもいくらでも時間がある、と言おう。」

3人ともそれが名案だと思いました。

もし今日、イエスを信じることについて、キリスト教の話について、神があなたの心に語りかけておられると思うなら、どうかイエスのところに今日行ってください。本当は、時間はいくらでもあるわけではないのです。

聖書は、今が救いの日だと語ります。

明日はどうなるかわかりません。いつまで生きられるか誰にもわからないのです。

ですから、今日、イエスを信じて決心してください。

イエスは、神があなたにくださる永遠のクリスマスプレゼントです。